

## 《女性研究者等研究支援成果報告 概要・要旨》

＜課題名＞環境教育指導者の育成方法の探求：エビデンスに基づくインタープリター・トレーニングの効果検証

＜代表者所属・職名・氏名＞人間社会研究域 人間科学系・講師・山田菜緒子

### ＜研究成果要旨＞

本研究の目的は、現状ニーズに則した知識と技能を備えるインタープリターを養成するため効果的なトレーニング方法を解明することである。環境教育の促進には人材育成が不可欠であり、その中核を担うインタープリターのトレーニングが重要である。これまでインタープリターのトレーニングに関する研究例は世界的にも非常に少なく、インタープリター・トレーニングの影響および有効な方法がいまだ明らかになっていない。国内外においてトレーニングのエビデンスが不足している現状にある。したがって、本研究はエビデンスを集めること、エビデンスに基づくトレーニングに関してその効果を検証することを目的とした。

まず、インタープリテーション、ビジタースタディ、ツーリズム分野の文献調査に基づいて、現代のインタープリターに必須の知識と技術を習得するトレーニングを計画した。その過程で、環境保全に関する人々の態度、思考、行動の変革に影響を与えられるインタープリテーションに必須の要素が同定された。例えば、インタープリテーションの4原則 (Ham & Weiler, 2002; Powell & Ham, 2008)、リフレクション (Ballantyne, Packer, & Sutherland, 2011)、ストーリーテリング (Moscardo, 2017) などである。これらの知識と技法を習得できる方法をトレーナーと検討し、エビデンスに基づいたトレーニング構成を決定した。

次に、実務家である一般社団法人日本インタープリテーション協会と協働して上記のエビデンスに基づいたトレーニングを実施した。トレーニングは2019年3月2日～4日（3日間）に金沢において開催された。県内外から（6つの都と県）7人のインタープリテーション実践者が参加した。効果検証には、前例にならぬトレーニング前後に参加者にアンケート調査を行い、知識と技能の習得に関する認識の変化を量的、質的に測定した (Weiler & Walker, 2014)。加えて、トレーニング中に日記形式の体験記録を求め、理解と認識の変化を質的に調べた (Weiler & Ham, 2002)。現在これらのデータを分析中である。

さらに、効果検証の一方で普及には実用性の確認も必要である。実用性と実効性の高いトレーニング方法を探るため、実務家を交えて討議し、トレーニング内容と構成を再検討する。インタープリテーション中上級レベルの関係者を対象とした討論会を実施し、現在のトレーニング構成と内容、課題、改善策などを実務家の視点で評価する。討論会は7人の実務家が参加して2019年3月23日に東京において開かれる予定である。討論会の内容はノート記述と音声録音を通して記録し質的データとして分析する予定である。

本研究の結果を国内国外の論文、学会で発表し、エビデンスに基づいたトレーニングの普及を図る。特に日本においては実務家を対象とした機会において研究結果を示し、社会への研究成果の還元に努める。同時に、世界最大のインタープリテーション組織であるアメリカを拠点とした National Association for Interpretation の大会や学術雑誌において発表する。そこでは主に研究者を対象にしてトレーニング効果検証の結果を提示し、トレーニング研究に貢献する。